

第 201 回 CERN 理事会メモ

2020 年 12 月 11 日 (金) 公開理事会 CERN 503-1-001 Council Chamber 及び TV 会議
日本からの参加者：寺坂公佑 (Geneva 代表部)、岡田安弘 (KEK)
アジェンダ：<https://indico.cern.ch/event/974327/>

日本はオブザーバーとして公開理事会に TV 会議で参加した。なお、公開理事会はウェブキャストで一般に公開された。

公開理事会

項目 2 3 199 回公開理事会議事録の承認

提案通り承認された。

項目 2 4 制限理事会、非公開理事会報告

理事長より 2020 年 6 月の公開理事会以降の制限理事会、非公開理事会の議事について報告があった。主な項目は次の通り。2021 年から 2025 年の中期計画と 2021 年予算が承認された。HL-LHC プロジェクトに関して、米国にオブザーバー資格が認められた。所長からの 2021 年 1 月 1 日からの運営体制と執行部メンバーの提案に支持を与えた。U. Bassler 氏を理事長として、P. Levai 氏を副理事長として再任した。Science Policy Committee の新メンバーとして、G. Isidori、K. Scholberg、A. Yamamoto の 3 氏を指名した。

項目 2 5 Finance Committee (FC) 議長の報告

FC 議長の U. Dosselli 氏が 9 月 23 日及び 12 月 10 日に開催された財務委員会の報告をした。FC は財務面に関して所長から報告された事項はすべて同意できると理事会に提言した。2020 年の貢献はすでに 99.5%受領したとのこと。

項目 2 6 Science Policy Committee (SPC) 議長の報告

SPC 議長の L. Rivkin 氏が、SPC の議論を紹介した。メンバー変更が報告された。加速器 R&D についてのロードマップが国立研究所長のグループにより、測定器 R&D のロードマップが ECFA により来年まとめられること、SPC メンバーと理事会の科学者メンバーとの非公式合同セッションが開催されたことが報告された。

項目 2 7 欧州物理学会による欧州経済に対する物理の重要性に関する研究

欧州物理学会長の P. Rudolf 氏から、最近まとめられた欧州経済に対する物理の重要性に関する研究成果が報告された。2011 年から 2016 年のデータに基づき、物理関連企業の収益、雇用、売上、輸出の規模を割り出し、欧州経済にとり、物理が重要であることを示す報告書をまとめたとのこと。

項目 2 8 LHC および HL-LHC における社会的なコストとベネフィットの分析

M. Florio 氏が LHC 及び HL-LHC プロジェクトの全期間 (1993 年-2038 年) および 2080 年までのコストとベネフィットに関する分析結果について報告した。

項目 2 9 LHC に関すること

F. Bordry 氏が第 2 長期シャットダウン (LS2) の加速器の作業、入射器系加速器アップグレード、HL-LHC プロジェクトの進捗状況について説明した。入射系の加速器の LS2 期間中

の作業は無事終了し、2021年の入射器の立ち上げスケジュールは承認されている。LHCのビーム運転は2022年2月の予定である。HL-LHCについては土木工事の進捗状況、クラブ空洞および超伝導磁石の開発状況について説明され、概ね順調に進んでいるとのことであった。ただし、LS2では11T超伝導電磁石は設置しないこととなった。

E. Elsen氏が実験とコンピューティングの現状報告をおこなった。最近の物理成果として、ATLASによる長寿命スカラーレプトン探索、CMSによるW粒子と光生成過程の測定、ALICEの重イオン衝突におけるbおよびcクォーク崩壊からのレプトン測定、LHCbによるBs中間子のCP不変性の破れの測定があげられた。また、LHC実験でのデータの扱いについて議論され、オープンデータの方針が4実験で承認された。LS2期間中の準備状況と新型コロナ感染の影響を踏まえて、2022年2月にRun3を開始すると決まった。

項目30 2022年の理事会のタイムテーブル

理事長より、2022年の理事会のスケジュールが示され了承された。

項目31 Confirmation of Access Status of Documents on the agenda

特に問題はなく確認が行われた。

項目32 その他

特になかった。

最後に、理事長より、今回で理事会から離れるメンバー等の紹介があり、謝意が示された。

項目33-37 年末LHC大会 若手研究者の講演

ALICE、ATLAS、CMS、LHCb、理論の若手研究者がWebinarで講演を行い、質疑に応じた。

文責：岡田